

手話を使う人が生きやすい世の中にするために

—健聴者へのアンケート調査から—

山下麻紘(馬場ゼミ)

論文の目次

序章

はじめに

先行研究

仮説とリサーチクエスチョン

第 1 章 手話と聴覚障がい

第 1 節 手話の成立と歴史

第 2 節 手話の用途と使用者

第 3 節 聴覚障がいとは何か

第 4 節 ろう者がおかれている現状

第 2 章 手話に関する意識—自治体による調査から—

第 1 節 自治体による調査の概要

第 2 節 自治体による調査の結果

第 3 節 自治体による調査の考察

第 3 章 健聴者の手話に対する認識—アンケート調査から—

第 1 節 調査概要

第 2 節 調査結果

第 4 章 考察

第 1 節 健聴者に対する調査の考察

第 2 節 自治体による調査の考察と健聴者に対する調査の考察の比較

第 3 節 手話への展望

おわりに

参考文献

論文の要旨

本研究は、著者自身のアルバイト先に手話を使う方が来店されたことや社会現象とも言われたフジテレビ系で放送されたドラマ「silent」を見て手話に興味を持ったことが背景となっている。また、ドラマ「silent」では「手話」だけでなく「聴覚障がい者」と向き合うことについても深く考えさせられるものであった。先行研究をまとめていく上で、ろう者自身がさまざまな場面で配慮が足りていないと感じる「配慮不足」が原因で生きにくいと感じるのではないかと考えた。そこで手話を使う人が生きやすい世の中にするために健聴者である私たちに何ができるか検討し、またそもそも手話や聴覚障がい者とは何か、そしてろう者が置かれている現状等を検討した。

先行研究として、3つの自治体（鳥取県、大阪府、山口県）が行った手話に関する調査を取り上げた。そこからそもそも手話を使う人が周囲におらず、その結果手話への興味関心だけでなく、私たち健聴者は手話への知識もないことが分かった。また手話に対して興味関心がないため、手話を学習する人も少なく「どうせ手話を使わないから」と結論に至ってしまうのではないかと考えた。手話を使う人が生きやすい世の中にするためにはまず、健聴者が手話に触れ興味関心を持つことで知識を増やし、より多くの方が手話を学習することではないかという仮説を設定した。

そこでこれらを実証するために対象を専修大学の学生に絞り手話に対する認識のアンケートを Google フォームで実施した。結果、大学生も同様に手話を使う人が周囲におらず、手話へ

の知識がなかった。しかし対象が社会学科の学生が多かったことから元々社会福祉に興味があるということも考えられるため、自治体が行った調査とは異なり手話に関心があると回答した人は多かった。さらに大学生はテレビや SNS で手話に触れる機会が多いことが分かった。このように様々な事柄に簡単に触れることができる時代であるからこそ、「手話」ということについてもっともっと発信していくことが手話に興味を持つきっかけであると考えた。また手話が使いやすい社会に向けて最も必要なことは、「学校教育等において手話を学ぶ機会を増やす」ことであった。学校という一度により多くに人が手話を学ぶことができる場であるからこそ、そのような機会の提供は必要なのではないかと考える。

これらをまとめると、手話を使う人が生きやすい世の中にするために、私たち健聴者は手話に触れる機会を増やすことで手話に興味関心を持ち手話の知識を得て、より多く人が手話を学ぶことではないかと考える。そうすることで「耳が聞こえない、聞こえづらい」ということがどういう状況か、どんな生きづらさを抱えているのか少しでも理解できるのではないかと。それがろう者と遭遇した時の「いつか」のために役に立つのではないかと著者は考える。

また社会福祉法人聴力情報文化センターでは、手話を学びたい人に様々な手話を学ぶ方法を紹介している。地域の手話講習会や手話サークル、専門学校・高等教育機関等の育成校、テレビや書籍など現在では色々な手段で手話を学ぶ機会がある。実際にたくさんの手話を学べる機会が提供されているため、その人に合った方法を選んで行うのが最適ではないかと考える。さらに専修大学では手話サークルや手話に関する講義も実施されている。著者の卒業論文で少しでも手話に興味を持ち、手話を学ぶ人が増えることを願いたい。

主要参考文献

1. 大阪府政策マーケティング・リサーチ「おおさかQ ネット」, 『おおさかQ ネット「手話言語」に関するアンケート』(参照:2023-12-01), 2016.
2. 玉井智子, 「手話関係者から見たろう者等の生活のしづらさについて—手話関係者への「ろう者等とのかかわりづらさに関するアンケート調査」から—」『松山大学論集』, 2012.
3. 鳥取県福祉保健部障がい福祉課社会参加推進室, 『鳥取県 手話に関するアンケート8 平成26年6月~8月』(参照:2023-12-01), 2014.
4. 山口県健康福祉部障がい者支援課, 『令和元年度 e・アンケートモニター 第一回アンケート No. 2(2) 調査結果 テーマ「手話について』』(参照:2023-12-01), 2019.
5. 米川明彦, 2002, 『手話ということば もう一つの日本の言語』, PHP 新書, 2002. 等々。